

# 日本コロムビア株式会社

第166期 定時株主総会 招集ご通知添付書類

## 第166期 報告書

平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

目次	売上高の貢献主要作品……………	P.1
	株主のみなさまへ……………	P.3
	事業報告……………	P.5
	連結計算書類等……………	P.25
	株主通信……………	P.34

証券コード:6791



# 売上高の貢献主要作品

## 市販／配信事業 音楽・映像ソフト

### 演歌・歌謡曲



『新・演歌名曲コレクション4  
一きよしの日本全国 歌の渡り鳥ー』  
氷川きよし



『舟木一夫 シアターコンサート2016  
ヒットパレード/美空ひばりスペシャル  
ーひばりが翔んだ日ターー』  
舟木一夫



『哀愁酒場／火の舞』  
田川寿美



『なかにし礼と13人の女優たち』

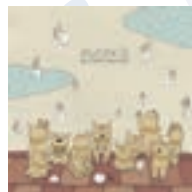
### J-POP



『THE YELLOW MONKEY SUPER JAPAN TOUR  
2016-SAITAMA SUPER ARENA 2016.7.10-』  
THE YELLOW MONKEY



『松山千春の系譜』  
松山千春



『eureka』  
04 Limited Sazabys



『MUCH TOO ROMANTIC! ~The Collectors  
30th Anniversary CD/DVD Collection』  
ザ・コレクターズ



『NIPPONNO ONNAWO UTAU Vol.4』  
NakamuraEmi



『Waltz on Life Line』  
9mm Parabellum Bullet



『SAMSARA FLIGHT  
～輪廻飛翔～』  
LOUDNESS



『河合奈保子ライブ・ベスト  
～けんかをやめて～』  
河合奈保子

### ジャズ・クラシック・インターナショナル



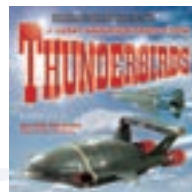
『ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番  
/パガニーニの主題による狂詩曲』  
反田恭平



『上妻宏光 Newest Best [粹-sui-』  
上妻宏光



『スペース・バレエ・シンフォニー  
ドクター・コッペリウス』  
富田勲



『サンダーバード音楽集  
～オリジナル・スコアによる』

 **アニメ**



『THE IDOLM@STER』  
シリーズ



『THE IDOLM@STER』  
シリーズ



『動物戦隊ジュウオウジャー』  
シリーズ



『宇宙戦隊キュウレンジャー』  
シリーズ



『AYA UCHIDA 2nd SOLO LIVE  
『Blooming! ～咲き誇れみんな～』  
内田彩



『ドキドキの風』  
村川梨衣



『30周年記念盤  
ゼルダの伝説 ゲーム音楽集』



『2016 ポップ・ヒット・マーチ  
～スター・ウォーズ/  
もしも運命の人がいるのなら～』

 **ゲーム**



『すみっこぐらし  
むらをつくるんです』



『すみっこぐらし  
おみせはじめるんです』



『ピカピカナス物語  
小児科はいつも大騒ぎ』



『古今亭志ん朝 県民ホール寄席』  
古今亭志ん朝

 **邦楽**

 **エデュケーショナル**



『いないいないばあっ!』  
シリーズ



『みいつけた!』  
シリーズ

**音楽配信**

『砂の塔』、『ALRIGHT』 THE YELLOW MONKEY  
『ハナミズキ』 青窈  
『Butterfly』 木村カエラ  
『THE IDOLM@STER』 シリーズ  
『動物戦隊ジュウオウジャー』 シリーズ

**特販／通販事業**

『演歌の花道』  
『擦り切れるまで聴いた歌謡ポップス100』

## 株主のみなさまへ



取締役会長  
平澤 創



代表取締役社長  
吉田 眞市



## 新しい音楽流通のカタチを創造し、次なる100年へ進みます。

株主の皆様におかれましては、平素より当社事業へのご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。

当社は、株主、顧客、取引先その他すべての人々にとって価値ある企業であるために、グループ丸となって経営効率化と収益性向上を目指した事業活動を推進しております。

当期業績におきましては、連結売上高は140億2千万円(前年度に比べ5.1%増)となりました。これは主に、市販／配信事業において、アニメ関連作品、ゲームソフトおよびアーティストマネジメント関連事業の売上が好調に推移したことなどによるものです。損益面においては、前述の売上の増加に加え、市販／配信事業における利益率の高い過年度発売作品の売上が堅調に推移したことなどにより、営業利益は18億8千6百万円(前年度に比べ57.2%増)、経常利益は18億5千3百万円(前年度に比べ52.7%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は16億5千5百万円(前年度に比べ70.1%増)と、前年度から大幅な増益となりました。

配当につきましては、期首の業績予想を上回る利益を計上することができたものの、将来の事業展開、財務体質の強化のため、内部留保の充実を図ることを最優先とすることが適切な経営判断であると考え、誠に遺憾ながら見送らせていただきます。

当社は今後も、フェイス・グループの一員として、注力するアーティストの育成や様々な音楽関連サービスを充実させるとともに、グループ丸となって音楽業界にイノベーションを起こすべく事業にまい進してまいります。

株主の皆様におかれましては、より一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

# 音楽業界において新たな価値の創造を目指すフェイス・グループ

株式会社フェイスは、世界で初めて携帯電話の「着信メロディ」を考案・実用化した企業であります。「着メロ」を日本発の新しい文化として世界約100カ国で定着させるなど、創業期よりコンテンツ流通のしくみ創りに取り組んでおり、コア・コンピタンスである「音」を柱に各分野でグローバルに事業を展開しております。

現在、フェイス・グループは、将来にわたるグループの成長・発展に向け、「コンテンツ流通の新たな仕組み創り」と、グループ各社でアーティストとファン・ユーザーをつなぐ様々な機能を企画・開発し、新たな仕組みを提供するビジネスモデルの構築を目指す「新・360° 戦略」の早期具現化を主要な課題として取り組んでおります。

こうした方針の下、当社はフェイス・グループの一員として、アーティスト育成・開発の新たな手法モデルの確立、新たな制作手法の活用、新たなメディアによるプロモーション展開と相互補完、マネジメント事業等周辺ビジネスの拡大、新たな商材・販売組織の連携、アジア各国等へのグローバル展開などを推進し、一定の成果を上げてきました。今後、さらにグループ間の連携を深め、グループ全体の経営資源やノウハウ、人材を効率的に活用していくことによって、100年に一度ともいえる大きな変革期を迎えている音楽業界において、これまでの業界の枠組みを超えた新たな価値の創造を目指してまいります。

## フェイス・グループ

コンテンツをユーザーに届けるためのあらゆる機能を有し、ワンストップサービスとしてプラットフォーム化できる企業グループです。

### フューチャーレコーズ

アーティストに関わる著作物の企画制作・管理

### エンターメディア

キャリア公式ファンサイトの構築・運用、ファンクラブの運営、indiesmusic.comの運営

### ライセンスケール

日本最初のiTunes公認アグリゲーター音楽配信ソリューションを提供

### ジャパンミュージックネットワーク

音楽情報サイトBARKSの運営、Webプロモーション事業、国内および海外イベントの企画・制作

### ドリーミュージック

アーティストのマネジメント、ミュージックソフト等の制作・販売  
映像制作・プロデュース、音楽・動画等の配信



### フェイス

コンテンツ配信プラットフォームの開発およびビジネスモデルの構築

### 日本コロムビア

日本最初のレコード会社  
ミュージックソフト等の制作・宣伝・出版管理

### フェイス・ワンダワークス

日本最大の着信メロディサイト運営、映像制作・プロデュース、音楽・動画等の配信

### オーケーライフ

日本最大級の音楽ソーシャルメディア  
OKMusicの企画・運営等

### グッディポイント

新たなポイントサービスの創造

### Faith Artists Music Entertainment

アーティスト・タレント育成、マネージメント、プロデュース

## 1. 企業集団の現況に関する事項

### (1) 事業の経過およびその成果

当社を親会社とするコロムビアグループは、当連結会計年度末現在、当社および子会社5社、関連会社2社で構成され、CD・DVDなどのオーディオ・ビデオソフト、ゲームソフト、および音楽配信に関連する分野において、国内外のグループ各社との緊密な連携のもとに制作、宣伝、販売を展開しております。

連結売上高は、市販／配信事業において、アニメ関連作品、ゲームソフトおよびアーティストマネジメント関連事業の売上が好調に推移したことなどにより、140億2千万円(前年度に比べ5.1%増)となりました。

損益につきましても、前述の売上の増加に加え、市販／配信事業における利益率の高い過年度発売作品の売上が堅調に推移したことなどにより、営業利益は18億8千6百万円(前年度は営業利益12億円)となり、経常利益は18億5千3百万円(前年度は経常利益12億1千3百万円)、親会社株主に帰属する当期純利益は16億5千5百万円(前年度は親会社株主に帰属する当期純利益9億7千3百万円)となりました。

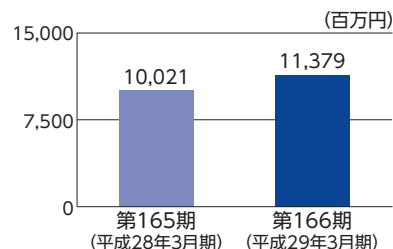
セグメントの業績の概況は、次のとおりであります。

#### 市販／配信事業

**売上高 113億7千9百万円 営業利益 24億9千1百万円**

アニメ関連作品、ゲームソフトおよびアーティストマネジメント関連事業の売上が好調に推移したことなどにより、売上高は113億7千9百万円(前年度に比べ13.6%増)となりました。損益につきましても、前述の売上の増加に加え、利益率の高い過年度発売作品の売上が堅調に推移したことなどにより、営業利益は24億9千1百万円(前年度は営業利益15億8千2百万円)となりました。

主な作品といたしましては、「氷川きよし」のヒットシングル“みれん心”をはじめ、「松山千春」自身が選曲を行った60曲収録のベストアルバム“松山千春の系譜”、15年ぶりに再集結の「THE YELLOW MONKEY」が15年9ヶ月ぶりに発売した通算25枚目のシングル“砂の塔”、2月に日本武道館単独公演を大成功させた「O4 Limited Sazabys」のセカンドメジャーアルバム“eureka”、“THE IDOLM@STER”シリーズ、“動物戦隊ジュウオウジャー”シリーズ、ほんわかキャラクター「すみっこぐらし」がみんなで村へやってきて、村づくりを始めるニンテンドー3DSソフト“すみっこぐらし むらをつくるんです”などの自社制作作品が、売上に貢献いたしました。

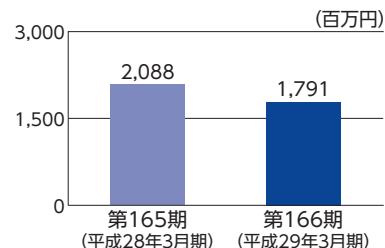




## 特販／通販事業

売上高 17億9千1百万円 営業利益 8億8千5百万円

前期好調であった利益率の高い音源使用にかかる売上の減少などにより、売上高は17億9千1百万円(前年度に比べ14.2%減)となりました。営業利益は8億8千5百万円(前年度は営業利益11億3千5百万円)となりました。



## その他

売上高 8億4千9百万円 営業利益 3億1百万円

昨年、米国における連結子会社に対する出資の全持分を譲渡したこと、他社作品の販売受託事業における売上が減少したことなどにより、売上高は8億4千9百万円(前年度に比べ31.2%減)となり、営業利益は3億1百万円(前年度は営業利益3億7千万円)となりました。

配当につきましては、期首の業績予想を上回る利益を計上することができたものの、将来の事業展開、財務体質の強化のため、内部留保の充実を図ることを最優先とすることが適切な経営判断であると考え、誠に遺憾ながら見送らせていただきます。

今後も、フェイス・グループの一員として、注力するアーティストの育成や様々な音楽関連サービスを充実させるとともに、グループ一丸となって音楽業界にイノベーションを起こすべく事業にまい進してまいります。

## (2) 対処すべき課題

当社を親会社とするコロムビアグループは、株主、顧客、取引先その他すべての人々にとって価値ある企業であるために、グループ一丸となって、経営の効率化と収益性の向上を目指した事業活動を推進するとともに、将来の成長に向け新規事業へ積極的に展開してまいります。

当社グループは、利益を安定的に計上できる体質にすることを最大の経営課題にしており、今後も継続して得意分野、成長分野へ経営資源を集中投下してまいります。音楽、映像関連業界の厳しい環境下において、当社の中核である音楽制作を中心とした市販／配信事業、制作した音源を活用した特販／通販事業および両事業から派生する新規事業に経営資源を集中することにより、さらに事業効率を高め、収益性を向上させてまいります。

今後も、フェイス・グループの一員として、注力するアーティストの育成や様々な音楽関連サービスを充実させるとともに、グループ一丸となって音楽業界にイノベーションを起こすべく事業にまい進してまいります。

各部門の取り組みは次のとおりです。

〔市販／配信事業〕

演歌・歌謡曲部門：

デビュー18年目を迎えた「氷川きよし」は、第58回日本レコード大賞で“みれん心”が優秀作品賞を受賞するなどますます活動を充実させております。今後とも、演歌アーティストNo.1の地位を不動のものにするため、高く評価される作品をリリースしてまいります。また、平成29年3月期は、大ヒット企画「なかにし礼&女優」シリーズ第2弾“なかにし礼と13人の女優たち”が大変なご好評をいただくことができました。引き続き、企画商品の充実等に取り組んでまいります。「舟木一夫」、「都はるみ」、「大川栄策」、「細川たかし」、「冠二郎」、「新沼謙治」、「クミコ」をはじめとするベテラン

アーティスト、中堅の「多岐川舞子」、「田川寿美」、「大石まどか」、「山崎ていじ」、若手の「走裕介」、「村木弾」など多彩な才能を活かした作品づくりに取り組んでまいります。

ジャズ・クラシック・インターナショナル部門：

クラシック、ジャズ、クロスオーバー(クラシック・ジャズ・ポップスといったジャンルの垣根を越えて音楽性を融合させた作品ジャンル)、洋楽など多様なジャンルの作品を制作しております。「上妻宏光」などの実績のあるアーティストの作品のさらなる拡充とともに、各方面から注目を集める天才ピアニスト「反田恭平」、新しい世代を担うサクソフォン奏者「上野耕平」、華麗なる平成の双子ソプラノデュオ「山田姉妹」など才能ある若手アーティストの確実なステップアップによるアーティストロースターの充実、クラシックカタログを活用したコンピレーション企画およびアーティスト活動と連動したライブ・コンサートの企画、主催、運営などに取り組んでまいります。今後も、音楽を様々な形で伝える機会を提供してまいります。

アニメ部門：

“THE IDOLM@STER”シリーズ、スーパー戦隊シリーズが大変なご好評をいただいております。今後も引き続き“THE IDOLM@STER”シリーズおよびスーパー戦隊シリーズ41作品目の“宇宙戦隊キュウレンジャー”を核とし、ヒットに向けて重点的にプロモートしてまいります。また、「内田彩」、「村川梨衣」など人気声優の育成に取り組んでまいります。さらに、“この素晴らしい世界に祝福を!”をはじめとするテレビアニメ番組や劇場公開アニメ作品への共同事業参画を通じて、主題歌作品のリリースおよび権利獲得などに積極的に取り組んでまいります。





#### エデュケーショナル部門：

“いないいないばあっ！”シリーズ、“みいつけた！”シリーズなどNHK教育番組のCD・DVDがファミリー層から大変なご支持をいただいております。教科書販売会社、幼稚園・保育園向け商材の販売会社との連携のもとタイアップ商品の開発に取り組んでまいります。また、全国各地で開催しております幼稚園・保育園・小学校の先生方を対象としたダンス実技講習会「コロムビア・キッズダンス講習会」事業をさらに発展させてまいります。

#### 邦楽部門：

伝統的純邦楽、民謡を中心に、落語作品なども強化を行うとともにSP音源復刻をはじめとする史料価値の高い企画作品にも引き続き取り組んでまいります。

#### J-POP部門：

16年ぶりの全国ツアーを成功させた「THE YELLOW MONKEY」をはじめ、「松山千春」、「9mm Parabellum Bullet」などの人気アーティストのファン層の一層の拡大を図ると共に、「グッドモーニングアメリカ」、「Czecho No Republic」、「Nakamura Emi」などの注力アーティストの育成の他、「04 Limited Sazabys」をはじめとするアーティストマネジメント事業についても、各種オーディション施策を講じることにより、積極的に展開してまいります。さらに、「I Don't Like Mondays.」などのフェイス・グループ全体で注力するアーティストの育成により、グループ間の事業シナジーの実現を加速してまいります。

#### ゲーム部門：

“すみっコぐらし”シリーズ、“あこがれガールズコレクション”シリーズがご好評をいただき、今もなお根強い人気を誇っております。今後も流行やニーズを的確に読み取り、人気キャラクターのゲーム化などニンテンドー3DSマシンの低年齢層への浸透に合わせた商品ラインナップの充実を図ってまいります。

#### 〔特販／通販事業〕

##### 特販事業：

引き続きマーケット別に取引先との関係を強化するとともに、新規販売チャネル、新規取引先の開拓を進めてまいります。また、当社の豊富なコンテンツを有効活用することにより、シニア向け、団塊世代向けの商品をはじめとする企画商品を充実させ、音源の多角的事業展開を図ってまいります。

##### 通販事業：

ホームページをリニューアルしたことにより、サービスの利便性を向上させております。今後もラインアップの最適化に努め、充実したサービスの提供に取り組んでまいります。また、当社の親会社である株式会社フェイスと共同開発した「受注」「決済」「配送」などの通販事業業務を一貫して効率的に運用できるフルフィルメントシステムにより、効率的に事業を展開しております。今後も、提携企業と共同でのCD・DVD商品の企画・制作や顧客ニーズを勘案した生活雑貨分野の商品企画などに取り組んでまいります。

---

**(3) 設備投資等の状況**

特記すべき設備投資等はありません。

**(4) 資金調達の状況**

特記すべき資金調達ははありません。

**(5) 事業の譲渡、吸収分割または新設分割の状況**

該当ありません。

**(6) 他の会社の事業の譲受けの状況**

該当ありません。

**(7) 吸収合併または吸収分割による他の法人等の事業に関する権利義務の承継の状況**

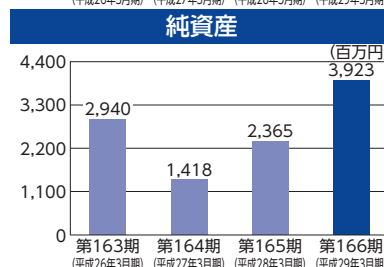
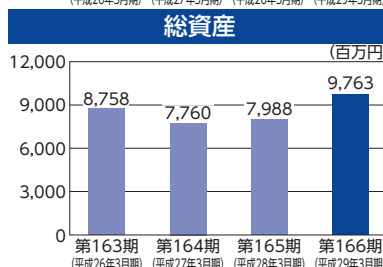
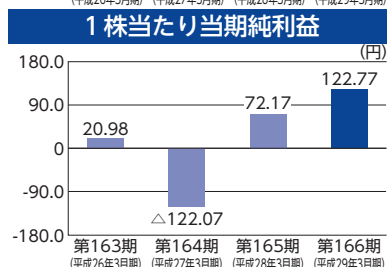
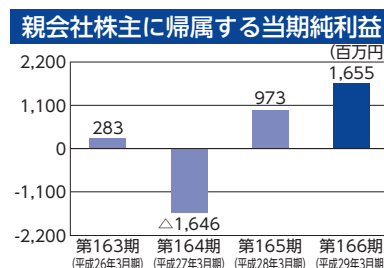
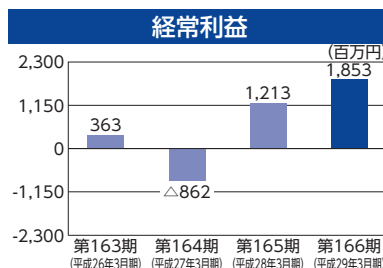
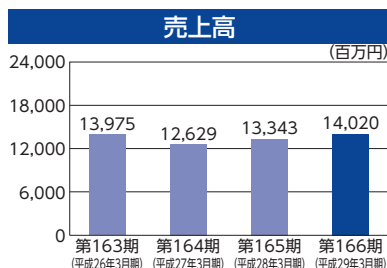
該当ありません。

**(8) 他の会社の株式その他の持分または新株予約権等の取得または処分の状況**

該当ありません。

## (9) 財産および損益の状況の推移

区 分	第 163 期 (平成26年3月期)	第 164 期 (平成27年3月期)	第 165 期 (平成28年3月期)	第 166 期 (平成29年3月期) (当 期)
売 上 高 (百万円)	13,975	12,629	13,343	14,020
経常利益又は経常損失 (△) (百万円)	363	△862	1,213	1,853
親会社株主に帰属する当期純利益又は 親会社株主に帰属する当期純損失 (△) (百万円)	283	△1,646	973	1,655
1株当たり当期純利益又は当期純損失 (△) (円)	20.98	△122.07	72.17	122.77
総 資 産 (百万円)	8,758	7,760	7,988	9,763
純 資 産 (百万円)	2,940	1,418	2,365	3,923



- (注) 1. 第164期(平成27年3月期)は、厳しい市場環境の影響を受け、当年度発売作品および利益率の高い過年度発売作品の売上、その他通販会社向け売上が大きく減少したことなどにより減収、減益となりました。
2. 第165期(平成28年3月期)は、市販/配信事業において、アニメ関連作品、ゲームソフトおよびアーティストマネジメント関連事業の売上が好調に推移し、利益率の高い過年度発売作品の売上が堅調に推移したこと、特販/通販事業においては、全般的に売上が増加し、利益率の高い音源使用にかかる売上が好調に推移したこと、さらには、昨年度に実施した組織改革のための転進支援施策により全社的に固定費が大幅に減少したことなどにより、増収、増益となりました。

3. 第166期（平成29年3月期）（当期）の状況につきましては、前記「1. 企業集団の現況に関する事項（1）事業の経過およびその成果」に記載のとおりであります。
4. 平成25年10月1日付で普通株式およびA種優先株式につき20株を1株とする株式併合を行ったため、第163期（平成26年3月期）の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり当期純利益を算定しております。

#### (10) 主要な事業内容（平成29年3月31日現在）

当社グループは、当社および子会社5社、関連会社2社で構成されており、市販／配信事業および特販／通販事業などを行っております。

当社および子会社、関連会社の各事業においては、オーディオ・ビデオソフト、ゲームソフトの企画・制作・販売および製造販売受託、アーティストの育成・マネジメント、著作権隣接権などの印税収入、音源原盤・映像原版の制作、音楽著作権の取得・管理を行っております。

#### (11) 重要な親会社および子会社の状況等（平成29年3月31日現在）

##### ① 親会社との関係

当社の親会社は、株式会社フェイスで、同社は、当社の株式6,875千株（議決権比率51.80%）を保有しております。

なお、当社と同社との間には、共同原盤契約、通販および配信事業における業務委託契約、出向および出向受入契約等に基づく取引関係があります。

##### ② 重要な子会社の状況

会社名	資本金	当社の議決権比率	主要な事業内容
コロムビア・マーケティング株式会社	100百万円	100.00%	音楽、映像ソフト等の企画、販売に関する事業および製造販売受託事業
コロムビアソングス株式会社	20百万円	100.00%	音楽著作権の取得、管理等
株式会社オーマガトキ	10百万円	100.00%	音楽、映像ソフト等の企画・制作等
株式会社シーツンデザイン	50百万円	100.00%	音楽、映像ソフト等のパッケージデザインの企画、制作等
シーエムイーックインク	45,194千米ドル	100.00%	米国における持株会社

連結対象子会社は、上記記載の重要な子会社5社であります。



### ③ 持分法適用会社の状況

会社名	所在地	資本金	当社の出資比率	主要な事業内容
株式会社 フューチャーレコーズ	東京都港区	100百万円	33.00%	アーティストに関わる著作物の企画制作、管理等
株式会社 TYMS PROJECT	東京都渋谷区	40百万円	24.00%	アーティストのマネジメント、音楽プロダクションの経営等

持分法適用会社は、上記記載の2社であります。

### ④ 特定完全子会社の状況

該当ありません。

### ⑤ 連結決算の概要

当年度の連結売上高は140億2千万円(前年度に比べ5.1%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は16億5千5百万円(前年度は親会社株主に帰属する当期純利益9億7千3百万円)となりました。

## (12) 主要な営業所および工場等 (平成29年3月31日現在)

日本コロムビア株式会社

本社 (東京都港区)

営業所

名古屋営業所 (名古屋市中村区)

大阪営業所 (大阪市中央区)

福岡営業所 (福岡市中央区)

コロムビア・マーケティング株式会社 (東京都港区)

コロムビアソングス株式会社 (東京都港区)

株式会社オーマガトキ (東京都港区)

株式会社シーツードザイン (東京都港区)

シーエムイー インク (米国 ジョージア州)

**(13) 従業員の状況（平成29年3月31日現在）**

従業員数	前期末比増減
228名	12名増

**(14) 主要な借入先の状況（平成29年3月31日現在）**

借入先	借入額
三井住友信託銀行株式会社	540百万円
株式会社三井住友銀行	144百万円
株式会社みずほ銀行	50百万円

**(15) その他企業集団の現況に関する重要な事項**

平成29年3月28日開催の取締役会において、株式会社フェイスを株式交換完全親会社とし、当社を株式交換完全子会社とする株式交換を行うことを決議し、同日付で株式会社フェイスとの間で株式交換契約を締結いたしました。当該株式交換は、両社の定時株主総会の決議による当該株式交換契約の承認を受けて行われる予定です。詳細については、株主総会参考書類 第1号議案（3頁～19頁）をご参照ください。

## 2. 会社の株式に関する事項

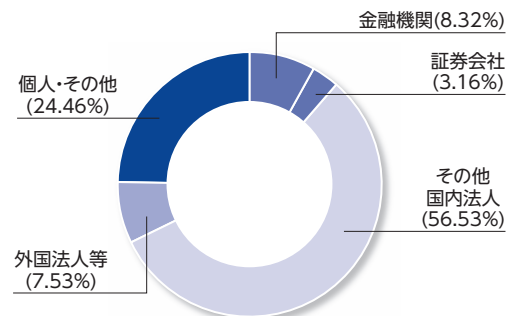
- (1) 発行可能株式総数 50,000,000株
- (2) 発行済株式の総数 13,487,320株 (自己株式 25,550株を除く)
- (3) 当事業年度末の株主数 8,793名 (前期比 804名減)

### (4) 大株主の状況（上位10名）

株主名	持株数	持株比率
株式会社フェイス	6,875千株	50.98%
RMB JAPAN OPPORTUNITIES FUND, LP.	740千株	5.49%
株式会社第一興商	622千株	4.62%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口）	228千株	1.69%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口1）	146千株	1.08%
楽天証券株式会社	137千株	1.02%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社（信託口）	128千株	0.95%
三井住友信託銀行株式会社	125千株	0.93%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口2）	118千株	0.88%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社（信託口5）	109千株	0.81%

（注）持株比率は、自己株式（25,550株）を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



### 3. 会社の新株予約権等に関する事項

#### (1) 当事業年度の末日に当社役員が有する職務執行の対価として交付された新株予約権等の内容の概要

	第17回発行	第22回発行
保有人数		
取締役（社外役員を除く）	1名	2名
監査役	1名	
株主総会の特別決議日	平成18年6月28日	平成21年6月24日
取締役会決議日	平成19年5月15日	平成21年6月24日
新株予約権の数（注）1	200個	180個
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数	10,000株	9,000株
新株予約権の発行価額	無償	無償
新株予約権の行使時の払込金額（注）2（注）3	2,140円	760円
新株予約権の行使期間	平成19年7月15日～ 平成29年5月14日	平成21年8月1日～ 平成31年6月30日
新株予約権の行使の条件	(注) 4	(注) 4
新株予約権の譲渡に関する事項	(注) 5	(注) 5
有利な条件の内容	(注) 6	(注) 6

(注) 1. 新株予約権1個につき目的となる株式数は、50株であります。

2. 当社が株式分割または株式併合を行う場合には、1株当たりの行使価額を次の算式により調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は、これを切り捨てます。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{分割・併合の比率}}$$

上記の他、新株予約権発行後に、当社が他社と合併する場合、会社分割を行う場合、その他これらの場合に準じ、行使価額の調整を必要と認める場合には、必要かつ合理的な範囲で、当社の取締役会が1株当たりの行使価額を適正に調整できるものとします。

3. 平成25年10月1日付で普通株式およびA種優先株式につき20株を1株とする株式併合を行ったため、新株予約権の行使価額は、株式併合の割合を基に20倍に調整しております。

4. 新株予約権の行使の条件は、次のとおりであります。

(1) 本新株予約権は、付与される新株予約権の個数の一部につき、これを行行使することができるものとします。各新株予約権の一部行使は、その目的たる株式の数が当社の1単元の株式数の整数倍となる場合に限り、これを行うことができます。

(2) その他の詳細や制限等は、株主総会および取締役会決議に基づき、当社および被割当事者間で締結される新株予約権割当契約書に定めるところによるものとします。

5. 本新株予約権の譲渡については、当社取締役会の承認を要するものとします。

6. 保有者に対し新株予約権を無償で発行しました。

#### (2) 当事業年度中に当社使用人、子会社役員および使用人に対して職務執行の対価として交付された新株予約権等の内容の概要

該当ありません。



## 4. 会社役員に関する事項

### (1) 取締役および監査役の氏名等

地 位	氏 名	担当および重要な兼職の状況
取 締 役 会 長	平 澤 創	株式会社フェイス代表取締役社長 株式会社八創代表取締役 株式会社パソナグループ取締役 株式会社GENESIS代表取締役 BIC株式会社取締役 株式会社ドリーミュージック取締役会長
代表取締役社長	吉 田 眞 市	株式会社フェイス フェイス・グループ参与
取 締 役	鈴 木 千 佳 代	最高財務責任者 兼 財務・管理本部長 株式会社シーツーデザイン代表取締役社長
取 締 役	佐 伯 次 郎	株式会社フェイス取締役最高財務責任者兼管理本部長 株式会社フェイスフューチャーファンド代表取締役社長 株式会社フライングペンギンズ取締役 株式会社ドリーミュージック取締役
取 締 役	南 部 靖 之	株式会社パソナグループ代表取締役グループ代表兼社長 株式会社パソナ代表取締役会長 株式会社ベネフィット・ワン取締役会長
常 勤 監 査 役	長 吉 晋	株式会社フェイス・ワンダワークス監査役
監 査 役	菅 谷 貴 子	弁護士（山田・尾崎法律事務所） 学校法人桐蔭学園桐蔭横浜大学大学院法務研究科准教授 株式会社フェイス監査役 トーセイ・リート投資法人監督役員 日通商事株式会社監査役
監 査 役	本 多 清	
監 査 役	水 戸 重 之	TMI総合法律事務所パートナー弁護士 株式会社プロコリー監査役 株式会社タカラトミー取締役

- (注) 1. 取締役平澤 創氏は、事業年度末日後の平成29年4月1日付で株式会社エンターメディアの取締役会長、平成29年5月15日付で株式会社ワクワワークスの取締役会長にそれぞれ就任しております。
2. 取締役佐伯次郎氏は、事業年度末日後の平成29年4月1日付で株式会社フェイス・ワンダワークスの取締役、株式会社エンターメディアの取締役および株式会社Faith Artists Music Entertainmentの取締役にそれぞれ就任しております。
3. 取締役南部靖之氏は、社外取締役であります。また、南部靖之氏は、金融商品取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。
4. 監査役本多 清氏、水戸重之氏は、社外監査役であります。なお、本多 清氏は、長年にわたり金融機関における業務経験があり、財務および会計に関する相当程度の知見を有しております。また、本多 清氏および水戸重之氏は、金融商品取引所の定めに基づく独立役員として届け出ております。

5. 当期中の異動

平成28年6月24日開催の第165期定時株主総会終結の時をもって、原 康晴氏は取締役を任期満了により退任いたしました。また、同総会において新たに取締役に鈴木千佳代氏が、監査役に水戸重之氏がそれぞれ選任され、就任いたしました。

6. 平成29年4月1日現在の執行役員は、次のとおりであります。

地 位	氏 名	担 当
上席執行役員	阿 部 三 代 松	コロムビア・マーケティング株式会社 代表取締役社長
執行役員	北 條 真	A&C本部 コロムビアハウス事業部長 兼 アニメ・ビジネスユニット ユニットリーダー
執行役員	山 邊 寛	経営戦略室長 兼 デジタル&マーケティング戦略推進プロジェクト プロジェクトリーダー 兼 A&C本部 戦略マーケティング統括部 副統括部長 兼 Webマーケティング部長 兼 コロムビア・マーケティング株式会社 デジタル&ダイレクトマーケティング統括部長
執行役員	岡 野 博 行	A&C本部 レーベル事業部長
執行役員	滝 田 洋	財務・管理本部 管理統括部長
執行役員	井 上 得 朗	コロムビア・マーケティング株式会社 特販統括部長
執行役員	森 田 寛 之	コロムビア・マーケティング株式会社 営業統括部長
執行役員	井 上 勝 浩	A & C本部 レーベル事業部 副事業部長 兼 トライアド・ビジネスユニット ユニットリーダー
執行役員	土 門 義 隆	A & C本部 マネジメント事業部長 兼 マネジメント第1・ビジネスユニット ユニットリーダー 兼 マネジメント第2・ビジネスユニット ユニットリーダー

## (2) 責任限定契約の内容の概要

当社は、取締役平澤 創氏、取締役佐伯次郎氏、取締役南部靖之氏、常勤監査役長吉 晋氏、監査役菅谷貴子氏、監査役本多 清氏および監査役水戸重之氏との間で、金300万円以上で予め定めた金額または法令が規定する額のいずれか高い額を限度額とする責任限定契約をそれぞれ締結しております。

### (3) 取締役および監査役の報酬等の額

区 分	支給人員	報酬の額
取締役 (うち社外取締役)	5名 (1名)	64百万円 (3百万円)
監査役 (うち社外監査役)	4名 (3名)	20百万円 (7百万円)
合 計	9名	84百万円

- (注) 1. 上記報酬の額には、当事業年度に係わる役員賞与引当金繰入額15百万円(取締役2名)を含んでおります。  
 2. 上記報酬のほか、社外役員が当社親会社または当社親会社の子会社(当社を除く)から受けた役員としての報酬額は8百万円です。  
 3. 監査役菅谷貴子氏は、「会社法の一部を改正する法律」(平成26年法律第90号)の施行に伴い、平成28年6月24日付で同法に定める社外監査役の要件を充足しないこととなりましたので、上記支給人員に含めたくえで、報酬の額の欄において社外監査役在任期間については社外監査役として記載しております。  
 4. 期末現在の在籍人員は、取締役5名、監査役4名であります。なお、取締役会長平澤 創氏につきましては、当社の成長・発展に向けてまい進すべく報酬を辞退する申し出があったため、無報酬といたしております。

### (4) 各会社役員の報酬等の額またはその算定方法に係る決定に関する方針の決定方法およびその方針の内容の概要

#### ① 取締役

当社の取締役が受ける報酬については、代表取締役およびそのほかの取締役(社外取締役を除く)は職責に見合った固定金額報酬と業績計画達成率に応じた業績連動型報酬、社外取締役は職責に見合った固定金額報酬とし、取締役の報酬額を年額9千7百万円以内(うち社外取締役分は1千5百万円以内)といたします。また、取締役会長平澤 創氏につきましては、当社の成長・発展に向けてまい進すべく報酬を辞退する申し出があったため、無報酬といたしております。なお、取締役の報酬額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まないものといたします。

#### ② 監査役

当社の監査役が受ける報酬については、職責に見合った固定金額報酬とし、監査役の報酬額を年額2千5百万円以内といたします。

## (5) 社外役員に関する事項

### ① 社外取締役の兼職状況

地 位	氏 名	重要な兼職の状況
取 締 役	南 部 靖 之	株式会社パソナグループ代表取締役グループ代表兼社長 株式会社パソナ代表取締役会長 株式会社ベネフィット・ワン取締役会長

- (注) 1. 社外取締役南部靖之氏が兼職している株式会社パソナグループおよび株式会社ベネフィット・ワンと当社との間には重要な関係はありません。
2. 社外取締役南部靖之氏が兼職している株式会社パソナと当社との間には再就職支援にかかる業務委託契約に基づく取引関係があります。

### ② 社外監査役の兼職状況

地 位	氏 名	重要な兼職の状況
監 査 役	本 多 清	
監 査 役	水 戸 重 之	TMI総合法律事務所パートナー弁護士 株式会社ブロッコリー監査役 株式会社タカラトミー取締役

- (注) 1. 社外監査役水戸重之氏が兼職しているTMI総合法律事務所と当社との間には法律相談等の取引関係があります。
2. 社外監査役水戸重之氏が兼職している株式会社ブロッコリーと当社との間には重要な関係はありません。
3. 社外監査役水戸重之氏が兼職している株式会社タカラトミーと当社との間には著作物利用契約等に基づく取引関係があります。

## ③ 主な活動状況

## (i) 取締役会および監査役会への出席状況

地 位	氏 名	取締役会（14回開催） 出席回数	監査役会（19回開催） 出席回数
取 締 役	南 部 靖 之	13	
監 査 役	本 多 清	14	19
監 査 役	水 戸 重 之	9	13

(注) 社外監査役水戸重之氏は、平成28年6月24日開催の第165期定時株主総会において新たに選任され、就任いたしました。社外監査役在任期間中に開催された取締役会には11回中9回、監査役会には14回中13回出席しております。

## (ii) 取締役会および監査役会における発言状況

氏 名	主 な 発 言 状 況
南 部 靖 之	企業経営における豊富な経験と幅広い見識から、必要かつ的確な発言を行っております。
本 多 清	事業会社における監査役経験と、金融機関および事業会社の経営に携わることにより培った幅広い知識と見識から、必要かつ的確な発言を行っております。
水 戸 重 之	弁護士としての専門性に基づき、客観的な立場から有用、必要かつ的確な発言を行っております。

## 5. 会計監査人の状況

### (1) 会計監査人の名称

新日本有限責任監査法人

### (2) 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額

(単位：百万円)

	支払額
1. 報酬等の額	30
2. 当社および当社子会社が支払うべき金銭 その他の財産上の利益の合計額	30

(注) 当社監査役会は、会計監査人の監査計画の内容、報酬見積りの算出根拠等が適切であるか必要な検証を行ったうえで、会計監査人が所要の監査体制・監査時間を確保し、適正な監査を実施するために本監査報酬額が妥当な水準であると認められることから、会計監査人の報酬等の額について同意いたしました。

### (3) 非監査業務の内容

当社は、会計監査人に対して、公認会計士法第2条第1項の業務以外の業務を委託しておりません。

### (4) 会計監査人の解任または不再任の決定の方針

監査役会は、会計監査人の職務の執行に支障がある場合等、その必要があると判断した場合は、会計監査人の解任または不再任に関する議案の内容を決定し、取締役会は、当該決定に基づき、当該議案を株主総会の会議の目的とすることといたします。

監査役会は、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定める項目に該当すると認められる場合は、監査役全員の同意に基づき、会計監査人を解任いたします。この場合、監査役会が選定した監査役は、解任後最初に招集される株主総会において、会計監査人を解任した旨およびその理由を報告いたします。

### (5) 会計監査人が受けた過去2年間の業務停止処分

金融庁が平成27年12月22日付で発表した業務停止処分の概要

- ① 処分対象 新日本有限責任監査法人
- ② 処分内容 ・ 契約の新規の締結に関する業務の停止 3月（平成28年1月1日から同年3月31日まで）  
・ 業務改善命令（業務管理体制の改善）

## 6. 会社の体制および方針

### (1) 取締役・使用人の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制その他業務の適正を確保するための体制および当該体制の運用状況

(業務の適正を確保するための体制の概要)

#### ① 内部統制システムの整備の状況

##### イ. コンプライアンスの徹底

- ・コロムビアグループ行動規範を制定し、当社およびグループ会社の各取締役、監査役および従業員が法令、規則および社内規程・方針を遵守した行動をとるための規範や行動基準を定めるとともに、リスクの未然防止と早期解決のために、社内通報に関する取扱規程により、通報者に不利益が生じないことを確保したうえで、顧問弁護士も含めた複数の担当者を通報先とする社内通報制度を設置し、コンプライアンスの推進を図ります。なお、社内通報制度により通報された情報は、当社の監査役に報告されるものとします。また、代表取締役社長を委員長とし、法務担当部門長などで構成されるコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンス体制の構築・運営に必要な事項を調査、検討、検証するとともに、啓蒙活動を実施いたします。

- ・当社およびグループ会社は、社会の一員として市民社会の秩序や安全に脅威を与える反社会的勢力および団体に対しては、毅然とした態度で臨み、一切の関係を遮断します。

##### ロ. 経営の効率性、透明性を確保し、適正かつ迅速な業務執行を行う体制

- ・経営環境の変化に応じて最適な経営体制のもとに機動的に運営するため、取締役の任期は1年とします。また、執行役員制度を導入し、取締役会の機動性確保、監督機能の強化を図ります。さらに、業務執行の迅速性を高めるために、業務執行取締役および執行役員などで構成される業務執行会議を設置します。

- ・各グループ会社については、担当部門において、グループ会社と一定の重要事項について協議、情報交換等を行うことを通じて、経営の効率性等の向上を図ります。

##### ハ. 経営監視機能の強化

- ・当社およびグループ会社は、監査役監査の実効性を確保するために、取締役会をはじめ業務執行会議その他の重要な会議への出席により、監査役による取締役の意思決定の過程および業務の執行状況を把握する体制を確保します。また、当社およびグループ会社の各取締役、監査役および従業員は、監査役および監査役会に対する重大な事項の報告をするとともに、重要な決裁書類の回付等の体制の構築、運用を実施します。監査役および監査役会に対して報告をした者に対しては、不利益が生じないことを確保いたします。さらに、代表取締役社長と監査役は、定期的に会合をもち、経営方針を確認するとともに、会社が対処すべき課題、事業その他に関するリスクのほか、監査役監査の環境整備の状況、監査上の重要課題等について意見交換を行います。

- ・監査役がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合は、これに応じます。

- ・取締役からの独立性および監査役からの指示の実効性を確保するため、監査役は上記使用人の人事について変更を求めることができます。また、当社は、上記使用人の任命、解雇、配転および人事異動等の雇用条件に関する事項について、監査役の同意を要することとしております。さらに、上記使用人は監査役の指揮命令に従うものとし、取締役および従業員の指揮命令は受けないものとしております。

- ・現在、上記使用人は置いておりませんが、業務執行部門から独立した代表取締役社長直轄の組織として内部監査室を設置しております。監査役は、年間の監査計画に従って、内部監査室および各部門から定期的に報告を受け、また、適宜指示を出し、監査しております。

- ・監査役は、その職務執行上の必要に応じて、法律・会計等の専門家に自由にアクセスすることがで

き、その費用は当社が負担することとしております。また、その職務を効果的に遂行するために会計監査人から年間の監査計画の説明を受け、さらに監査結果の報告を含む定期会合を開催し監査役の職務および活動に関連するあらゆる事項について協議いたします。特に、内部監査結果につきましては、全て会計監査人に報告しております。

- ・取締役会による、取締役の業務執行に対する監督、監査の実効性を高めるために、取締役5名のうち社外取締役を1名選任しております。また、監査役4名のうち2名は社外監査役です。
- ・内部監査室が行う内部監査を通じて、適法性および妥当性の観点から検討・評価することにより、不正過誤を防止し、経営の合理化および効率増進を図ります。

## 二. グループ会社管理

- ・当社およびグループ会社は、担当部門において、当社グループにおける業務の適正を確保するため、グループ各社における適切な内部統制の構築を目指し、かかる内部統制の実効性を高める施策を実施しております。また、当社は、グループ各社から当該グループ会社の営業成績、財務状況その他の重要な情報について、定期的に報告を受け、必要な指導・支援を実施いたしております。

### ② リスク管理体制の整備の状況

リスク管理体制としては、担当部門において、リスクマネジメント機能強化のため、リスクの抽出、把握、予防、対応策の検討を行い、当社およびグループ会社への周知徹底を図っております。また定期的にリスクの状況のモニタリングを行うことにより、事前の予防ならびに発生時の適切な対応ができる体制をとっております。

### ③ 情報の保存・管理に関する体制

当社が取り扱う情報の適正管理の体制および管理方法を定めた情報管理規程に基づき、情報管理統括責任者および各部門の情報管理責任者が情報の記録、保存、管理を行っております。

(業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要)

当社およびグループ会社の業務の適正を確保するための体制の運用状況の概要は、以下のとおりであります。

- ・当社は、原則として月1回開催される定例取締役会に加えて、適宜臨時取締役会を開催し、法令または定款に定められた事項および経営上重要な事項の決議等を行うとともに、取締役の業務執行の監督を行いました。また、取締役会により選任された各執行役員は、代表取締役社長の指揮・監督の下、各自の権限および責任の範囲において業務を執行いたしました。
- ・監査役は、取締役会をはじめ業務執行会議その他の重要な会議への出席や、定期的に行われる取締役と監査役との会合等を通して意見交換を行うことにより、監査の実効性を確保しております。
- ・財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に鑑み、策定した実施計画に基づき内部統制評価を実施いたしました。
- ・コンプライアンス意識の向上を目的とした研修を実施いたしました。
- ・社内通報制度の設置に関する規程を整備し、当社およびグループ会社に周知、運用しております。
- ・個人情報を含めた会社の機密情報の漏えい防止を目的とした研修を実施いたしました。
- ・各グループ会社については、一定の重要事項について当社との間で協議、情報交換等を実施いたしました。

## (2) 株式会社の支配に関する基本方針

当社は、会社の財務および事業の方針の決定を支配する者のあり方に関する基本方針について特に定めておりません。





### (3) 剰余金の配当等の決定に関する方針

当社は、安定した配当の維持を基本とし、将来の事業展開に備え内部留保の充実を図りつつ、業績および今後の見通しなどを総合的に勘案し、配当を行うことを方針としております。

(注) この事業報告中の記載金額（1株当たり当期純利益又は純損失を除く）および株式数は、表示単位未満を切り捨てております。

## 連結貸借対照表

(平成29年3月31日現在)

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
<b>(資産の部)</b>		<b>(負債の部)</b>	
<b>流動資産</b>	<b>8,845</b>	<b>流動負債</b>	<b>5,122</b>
現金及び預金	5,927	支払手形及び買掛金	989
受取手形及び売掛金	1,765	短期借入金	290
商品及び製品	358	1年内返済予定の長期借入金	284
仕掛品	290	リース債務	4
原材料及び貯蔵品	44	未払金	824
繰延税金資産	83	未払費用	283
前渡金	23	未払印税	1,791
前払費用	216	未払法人税等	231
その他	139	返品調整引当金	73
貸倒引当金	△3	その他	350
<b>固定資産</b>	<b>917</b>	<b>固定負債</b>	<b>716</b>
<b>有形固定資産</b>	<b>156</b>	長期借入金	160
建物及び構築物	83	退職給付に係る負債	522
機械及び装置	14	資産除去債務	34
工具、器具及び備品	53	<b>負債合計</b>	<b>5,839</b>
土地	0	<b>(純資産の部)</b>	
リース資産	3	<b>株主資本</b>	<b>4,176</b>
<b>無形固定資産</b>	<b>164</b>	資本金	1,000
リース資産	0	資本剰余金	557
ソフトウェア	127	利益剰余金	2,651
その他	35	自己株式	△32
<b>投資その他の資産</b>	<b>596</b>	その他の包括利益累計額	△268
投資有価証券	270	その他有価証券評価差額金	3
繰延税金資産	24	為替換算調整勘定	△175
長期前払費用	0	退職給付に係る調整累計額	△96
長期未収入金	66	<b>新株予約権</b>	<b>15</b>
その他	530		
貸倒引当金	△295	<b>純資産合計</b>	<b>3,923</b>
<b>資産合計</b>	<b>9,763</b>	<b>負債・純資産合計</b>	<b>9,763</b>



## 連結損益計算書

(平成28年4月1日から  
平成29年3月31日まで)

(単位：百万円)

科 目	金 額
売上高	14,020
売上原価	7,679
売上総利益	6,341
販売費及び一般管理費	4,454
営業利益	1,886
営業外収益	
受取利息	0
受取配当金	0
未払印税整理益	22
受取手数料	4
その他	3
営業外費用	
支払利息	8
持分法による投資損失	0
株式交換関連費用	54
その他	1
経常利益	64
特別利益	1,853
新株予約権戻入益	27
その他	2
税金等調整前当期純利益	1,883
法人税、住民税及び事業税	331
法人税等調整額	△104
当期純利益	1,655
非支配株主に帰属する当期純利益	—
親会社株主に帰属する当期純利益	1,655

## 連結株主資本等変動計算書

(平成28年4月1日から  
平成29年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本				
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計
当 期 首 残 高	1,000	557	995	△31	2,521
当 期 変 動 額					
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益			1,655		1,655
自 己 株 式 の 取 得				△0	△0
株主資本以外の項目の 当 期 変 動 額 (純 額)					
当 期 変 動 額 合 計	-	-	1,655	△0	1,655
当 期 末 残 高	1,000	557	2,651	△32	4,176

	その他の包括利益累計額				新株予約権	純資産合計
	その他有価証券 評価差額金	為替換算調整勘定	退職給付に係る調整累計額	その他の包括利益 累計額合計		
当 期 首 残 高	2	△175	△25	△198	42	2,365
当 期 変 動 額						
親会社株主に帰属する 当 期 純 利 益						1,655
自 己 株 式 の 取 得						△0
株主資本以外の項目の 当 期 変 動 額 (純 額)	0	0	△70	△69	△27	△96
当 期 変 動 額 合 計	0	0	△70	△69	△27	1,558
当 期 末 残 高	3	△175	△96	△268	15	3,923



## 貸借対照表

(平成29年3月31日現在)

(単位：百万円)

科 目	金 額	科 目	金 額
<b>(資産の部)</b>		<b>(負債の部)</b>	
<b>流動資産</b>	<b>7,615</b>	<b>流動負債</b>	<b>4,898</b>
現金及び預金	4,100	支払手形	160
売掛金	2,166	買掛金	801
商品及び製品	358	短期借入金	290
仕掛品	290	1年内返済予定の借入金	284
原材料及び貯蔵品	44	長期借入金	4
前払費用	23	未払金	1,062
繰延税金資産	199	未払費用	202
未収金	50	未払印税	1,698
その他の入金	302	未払法人税等	181
貸倒引当金	80	前受金	22
<b>固定資産</b>	<b>1,056</b>	預り金	69
<b>有形固定資産</b>	<b>156</b>	返品調整引当金	73
建物	83	その他の負債	47
機械及び装置	14	<b>固定負債</b>	<b>633</b>
工具、器具及び備品	53	長期借入金	160
土地	0	退職給付引当金	426
リース資産	3	資産除去債	34
<b>無形固定資産</b>	<b>108</b>	その他の負債	12
ソフトウェア	104	<b>負債合計</b>	<b>5,532</b>
リース資産	0	<b>(純資産の部)</b>	
その他の資産	4	株主資本	3,120
<b>投資その他の資産</b>	<b>791</b>	資本剰余金	1,000
投資有価証券	261	資本剰余金	169
関係会社株式	204	その他資本剰余金	169
長期貸付金	30	<b>利益剰余金</b>	<b>1,982</b>
破産更生債権等	1	利益準備金	760
長期前払費用	0	その他利益剰余金	1,221
繰延税金資産	17	<b>自己株式</b>	<b>△32</b>
長期未収金	46	評価・換算差額等	3
その他の入金	501	その他有価証券評価差額金	3
貸倒引当金	△272	<b>新株予約権</b>	<b>15</b>
<b>資産合計</b>	<b>8,671</b>	<b>純資産合計</b>	<b>3,139</b>
		<b>負債・純資産合計</b>	<b>8,671</b>

## 損益計算書

(平成28年4月1日から  
平成29年3月31日まで)

(単位：百万円)

科 目	金 額
売上高	13,159
売上原価	7,264
売上総利益	5,895
販売費及び一般管理費	4,763
営業利益	1,131
営業外収益	
受取利息	0
受取配当金	429
受取手数料	77
未払印税の整理	22
その他	15
営業外費用	546
支払利息	8
株式交換関連費用	54
その他	1
経常利益	64
特別利益	1,613
新株予約権戻入益	27
その他	2
税引前当期純利益	29
法人税、住民税及び事業税	96
法人税等調整額	△69
当期純利益	1,617



## 株主資本等変動計算書

(平成28年4月1日から  
平成29年3月31日まで)

(単位：百万円)

	株 主 資 本		
	資 本 金	資 本 剰 余 金	
		その他資本剰余金	資本剰余金合計
当 期 首 残 高	1,000	169	169
当 期 変 動 額			
当 期 純 利 益			
自己株式の取得			
株主資本以外の 項目の当期変動額(純額)			
当 期 変 動 額 合 計	-	-	-
当 期 末 残 高	1,000	169	169

	株 主 資 本				
	利 益 剰 余 金			自己株式	株主資本合計
	利益準備金	その他利益剰余金	利益剰余金合計		
当 期 首 残 高	760	△395	365	△31	1,503
当 期 変 動 額					
当 期 純 利 益		1,617	1,617		1,617
自己株式の取得				△0	△0
株主資本以外の 項目の当期変動額(純額)					
当 期 変 動 額 合 計	-	1,617	1,617	△0	1,616
当 期 末 残 高	760	1,221	1,982	△32	3,120

	評価・換算差額等		新株予約権	純資産合計
	その他有価証券評価差額金	評価・換算差額等合計		
当 期 首 残 高	2	2	42	1,548
当 期 変 動 額				
当 期 純 利 益				1,617
自己株式の取得				△0
株主資本以外の 項目の当期変動額(純額)	0	0	△27	△26
当 期 変 動 額 合 計	0	0	△27	1,590
当 期 末 残 高	3	3	15	3,139

## 連結計算書類に係る会計監査人の監査報告書 謄本

### 独立監査人の監査報告書

平成29年5月11日

日本コロムビア株式会社  
取締役 会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 内藤 哲哉 ㊟  
業務執行社員  
指定有限責任社員 公認会計士 北池 晃一郎 ㊟  
業務執行社員

当監査法人は、会社法第444条第4項の規定に基づき、日本コロムビア株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの連結会計年度の連結計算書類、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表について監査を行った。

#### 連結計算書類に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結計算書類を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結計算書類を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

#### 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結計算書類に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結計算書類に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結計算書類の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結計算書類の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結計算書類の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結計算書類の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### 監査意見

当監査法人は、上記の連結計算書類が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、日本コロムビア株式会社及び連結子会社からなる企業集団の当該連結計算書類に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 強調事項

連結注記表の追加情報に記載されているとおり、会社は、平成29年3月28日開催の取締役会において、株式会社フェイスを株式交換完全親会社、会社を株式交換完全子会社とする株式交換を行うことを決議し、同日付で株式交換契約を締結した。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上





## 会計監査人の監査報告書 謄本

## 独立監査人の監査報告書

平成29年5月11日

日本コロムビア株式会社  
取締役 会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 内藤 哲哉 ㊟  
業務執行社員指定有限責任社員 公認会計士 北池 晃一郎 ㊟  
業務執行社員

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、日本コロムビア株式会社の平成28年4月1日から平成29年3月31日までの第166期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書について監査を行った。

## 計算書類等に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類及びその附属明細書を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から計算書類及びその附属明細書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に計算書類及びその附属明細書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、計算書類及びその附属明細書の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による計算書類及びその附属明細書の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、計算書類及びその附属明細書の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての計算書類及びその附属明細書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

## 監査意見

当監査法人は、上記の計算書類及びその附属明細書が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類及びその附属明細書に係る期間の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

## 強調事項

個別注記表の追加情報に記載されているとおり、会社は、平成29年3月28日開催の取締役会において、株式会社フェイスを株式交換完全親会社、会社を株式交換完全子会社とする株式交換を行うことを決議し、同日付で株式交換契約を締結した。

当該事項は、当監査法人の意見に影響を及ぼすものではない。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

## 監査役会の監査報告書 謄本

### 監査報告書

当監査役会は、平成28年4月1日から平成29年3月31日までの第166期事業年度の取締役の職務の執行に関して、各監査役が作成した監査報告書に基づき、審議の上、本監査報告書を作成し、以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査役及び監査役会の監査の方法及びその内容

- (1) 監査役会は、監査の方針、職務の分担等を定め、各監査役から監査の実施状況及び結果について報告を受けるほか、取締役等及び会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。
- (2) 各監査役は、監査役会が定めた監査役監査の基準に準拠し、監査の方針、職務の分担等に従い、取締役、内部監査室その他の使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、以下の方法で監査を実施しました。
  - ① 取締役会その他重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。また、子会社については、子会社の取締役及び監査役等と意思疎通及び情報の交換を図り、必要に応じて子会社から事業の報告を受けました。
  - ② 事業報告に記載されている取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他株式会社及びその子会社から成る企業集団の業務の適正を確保するために必要なものとして会社法施行規則第100条第1項及び第3項に定める体制の整備に関する取締役会決議の内容及び当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）について、取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明いたしました。
  - ③ 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（平成17年10月28日企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書並びに連結計算書類（連結貸借対照表、連結損益計算書、連結株主資本等変動計算書及び連結注記表）について検討いたしました。

#### 2. 監査の結果

- (1) 事業報告等の監査結果
  - ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
  - ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為または法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。
  - ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項はありません。
- (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果  
会計監査人新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。
- (3) 連結計算書類の監査結果  
会計監査人新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

平成29年5月15日

日本コロムビア株式会社	監査役会
常勤監査役	長吉 晋 ㊟
監査役	菅谷 貴子 ㊟
監査役（社外監査役）	本多 清 ㊟
監査役（社外監査役）	水戸 重之 ㊟

以上



# 日本コロムビア株式会社

166th BUSINESS REPORT

## 第166期 株主通信

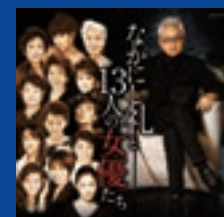
平成28年4月1日から平成29年3月31日まで

目次 アーティストインタビュー

NakamuraEmi…………… P.35

舟木一夫…………… P.37

会社・株式情報



# Nakamura Emi



自身の想いをストレートにつづるリリックを小柄な体からは想像できないバワフルな声に乗せて歌い上げるシンガー・ソングライター・Nakamura Emi。その唯一無二の音楽スタイルはいかにして生まれ、どこに向かうのか。彼女が歩んできた“これまで”、そして歩いていく“これから”を語る。

## PROFILE

1982年生まれ、神奈川県厚木市出身。山と海と都会の間で育ち、短大卒業後、保育士や自動車メーカーのエンジニアなど、さまざまな職種を経験しながらアーティスト活動を続ける。30歳ころに出会ったヒップホップやレゲエに大きな衝撃を受け、歌とフロウを行き来するような現在の独特な歌唱スタイルを確立。2016年1月20日、日本コロムビアより1stアルバム『NIPPONNO ONNAWO UTAU BEST』をリリースしメジャーデビュー。収録曲『YAMABIKO』が全国のCSやFM/AMラジオ52局でパワープレイを獲得するなど大きな反響を呼ぶ。2017年3月8日、待望の2ndアルバム『NIPPONNO ONNAWO UTAU Vol.4』をリリース。4月から6月にかけて全国11カ所を巡るアルバムリリースツアーを開催した。

### 『NIPPONNO ONNAWO UTAU Vol.4』

2017年3月8日発売  
2,700円(税別)

待望の2ndアルバム。昨年末にMVが公開された、デビューから1年を経た心境をつづった「メジャーデビュー」の別バージョンや、2017年1月20日にTOKYO FM & JFN38局ネット「SCHOOL OF LOCK!」にて初オンエアされた新曲『大人の言うことを聞け』など8曲を収録。日々の暮らしの中での自身の経験、想いを飾らない言葉に込めた楽曲の数々が、老若男女問わず全ての人の心を強烈に揺さぶる。



挑戦して初体験をして失敗して悩んで……  
それを日記のように曲に詞につづり続けていく



—— NakamuraEmiさんの楽曲にはジャズやブルース、ヒップホップなどさまざまな音楽ジャンルの要素が感じられます。その独特のスタイルはどのように出来上がったのでしょうか。

幼いころから20代まではずっとヒット曲しか聴いていませんでしたし、以前は自分の音楽もこれといって特徴のないものでした。でも、30歳になる少し前にヒップホップやレゲエに出会って、自分の音楽はなんて“生ぬるい”ものだったのかと気付いたんです。

—— 生ぬるい、という？

小学生まではすごく“自己中”な性格で、それが原因で中学生のときに仲間はずれにされたんですよ。それから人に合わせる性格になってしまいました。だから、歌詞にしても、人に嫌われないような当たり障りのないものばかりだったんです。ヒップホップに初めて触れたとき、自分が言いたいことを自分の言葉で表現しているリリックに衝撃を受けて……。自分の“生ぬるさ”が分かってからは、音楽はもう趣味にしようと思いました。

—— でも、今は音楽が趣味ではなく仕事になりました。どのような経緯、心境の変化があったのでしょうか。

音楽を趣味に切り替えてからは、曲も詞も誰かに聴いてもらうためではなく、自分のために書いていました。その日の自分の駄目だったところや、こうなりたいと思うすてきな人のこと。日記のようにあくまで自分を吐き出すためのものでした。そのころ、今のマネージャーに誘われて事務所の先輩・竹原ピストルさんのライブを観たんです。あんなに人間くさくて気取っていない人がそのままの姿でライブをやっていて、ぼろ泣きしたんです。そんな方をマネージメントしている人たちが「お前と一緒にやりたい」と言ってくれるのなら、本当に自分らしくできるんじゃないかと思ったんです。

—— メジャーデビューから約1年半が過ぎました。デビューしたことで得ることができたもの、見えたものはありますか。

以前はメジャーにはいわゆる“業界”的なイメージがあったんですが、結局はどんな世界も人間同士のつながりで出来ているんだなと分かりました。今の私が楽しく音楽をやらせていただいているのも、周囲の方がNakamuraEmiらしさを知ってくれて、私がやりやすい環境を作ってくれているからこそ。本当に感謝しかありません。

—— 音楽に臨む姿勢に関してはどうでしょうか。



デビューに当たって、お金を頂いて自分勝手な音楽をやっているのかと悩んだこともありましたが、でも、「あなたの曲が支えです」というような声を頂くこともあって、自分のために書いた曲が誰かのそばに寄り添うことができるのなら、聴く人のことを考えるのではなく、これからも今までと同じように自分のことを正直に書いていこうと決めました。

—— 歌詞や曲はもちろん、力強い声に魅せられているファンも多いようです。シンガーとしてのご自身を客観的にどのようにとらえていますか。

歌手としては……30点。自分の歌でも必死に練習しないとできないし、まして別の方が書いた歌詞だと心が入っていかなくて全然いい歌にならない。私がミュージシャンとして自信を持つ、頑固になれる部分は歌詞だけ。ただ、その自分の言葉をどうすればちゃんと伝えられるかというところは常に意識しています。

—— 3月にリリースされた2ndアルバムの聴きどころを教えてください。

デビューしたことでたくさんの方と出会って初めて触れる刺激がたくさんありました。その刺激、“光や宝箱”のようなもののテーマに、音作りからジャケットまですごくこだわらせていただいた。いろんなところに“光や宝箱”が隠されていますから、耳はもちろん、目でも楽しんでいただきたいですね。

—— インディーズ時代から『NIPPONNO ONNAWO UTAU』というタイトルで作品を制作し続けています。その想いとは？

デビュー前にいろんな仕事を転々とする中で、すてきな女性にたくさん出会ってきました。それが私の財産。せつかく日本人に生まれてきたのだから、彼女たちのような日本人らしい細やかな心を持った芯のある女性になれるようにという願いを込めた曲が多いんです。それでこのタイトルでの作品リリースを続けています。

—— ミュージシャンとしての今後の目標、やりたいことを教えてください。

私がやるべきことは、これからもいろんな挑戦をして初体験をして失敗して悩んで、それを今までと変わらず日記のように曲にしていこう。それを手に、全国の主要な場所に限らず、ライブハウスがないような地方にも回れるようなアーティストになりたいです。

—— 最後に、株主さまへのメッセージをお聞かせください。

たくさんの先輩方、また若い方からいろんなものを取り入れて、自分らしいものをどんどん発信して、皆さんの生活のそばに少しでも寄り添える音楽を創れるよう精進していきたいと思います。

# 舟木一夫

同じ歌を聴いても  
歌との距離感、青

数々の青春歌謡で長きにわたりファンを魅了してきた舟木一夫。芸能生活55周年を迎え72歳となった今だからこそ歌える“青春”がある。舞台や映画でも活躍するが「僕が最後にすぎるのはやっぱり歌」。衰えることのない歌への情熱を舟木一夫が語る。

—— 舟木さんはいわゆる青春歌謡の第一人者ですが、今のお年になられて歌う青春歌謡をどのようにとらえていますか。

歌う方もそうだけど、お客さんも18歳と60歳では同じ歌を聴いても見える景色が全く違う。仕事や恋愛で失敗した、家庭を持った、親を亡くした……そういう人生のプロセスを経て、若いころの曲を聴くというんな想いが“ブレンド”されて出てくる。当時は分からなかった詞の深みにも気付くだろうし、別の歌になっていると言ってもいい。それが流行歌のいいところだね。

—— 若いころと音楽活動に臨む姿勢に変化はありますか。

プロならたいていの歌はそれなりには歌える。でも、歌との距離感がなかなかつかめないもので、時間差があって変わるものなんだよね。例えば『高校三年生』と『学園広場』は同じ学園モノだけど、それぞれを近く感じるのとは決して同時じゃない。それはお客さんも一緒。僕が18歳のときに『学園広場』を歌っても泣いている人なんていなかった。ところが、今歌うと泣いている方がいっぱいいる。ある歌との距離感が突然ぐっと近くなる時がある。逆に若いときには“響いた”のに今は何も感じられなくなる歌もあるでしょ？そういう歌との距離感は大事にしたいと思っているね。

—— 現在も精力的にコンサートを行っていらっしゃいますが、ステージに立つに当たって最も意識していることはなんですか。

とにかくいい響きの声を届けられるかということが一番。歌は心で歌うものと言われたら確かにその通りなんだけど、それは大前提としてちゃんとした声があるもの。声のコンディションをキープするためには公私共に切り捨てる部分もある。コンサートの前日にはほとんどしゃべらないからね。もう若くないから一晩寝れば大丈夫ってわけにいかない(笑)。

—— 役者としてもご活躍ですが、やっぱり歌うこと、歌手としての在り方に強いこだわりがあるように感じます。

もちろん！例えば、最終的に芸能人としての選択肢が減っていったとして、最後にすぎるのはやっぱり歌。芝居にしても漫才にしても、芸事というのは見かけやテクニックでごまかせるものじゃない。最後はパーソナル、“個”に還っていく。僕の場合は歌。それがここ5、6年の実感だね。

—— 1月25日には、作詞家・丘灯至夫さんなど舟木さんと親交が深かった作家たちをフィーチャーしたアルバムを2作リリースされました。作家の皆さんへの想いやエピソードを教えてください。

そういう方と巡り会えたことが本当にありがたい。先生方がいらっしゃるなかったらどうなっていたのかと思うよ。中でも作曲家・船村徹先生はものすごくエネルギーで、今でも日本コロムビアでは「カラスが鳴かない日があっても船村徹がレコーディングをしていない日はない」という伝説が語られるくらい。しかも、自分の作品は全部アレンジまでやる。大作曲家にして超一流のアレンジャーという稀有な人でしたね。

—— 作家というと、舟木さんご自身が作詞作曲されたシングル『みんな旅人』を1月25日にリリースされました。歌手とは異なるスタンスで楽曲に臨まれたのではないのでしょうか。

僕なんかは、こういう思いをした、あんな経験をしたというような、自分のことを書くことしかできない。作詞作曲を専業でやってきたわけじゃないからね。自分の思いを自分で書いて自分で歌う、シンプルにそれだけ。もしかしたら、別の人間が企画したのなら出てこない自分の内面的な欲求不満のはけ口、というものでもあるかもしれないけどね(笑)。ただ、一つ言えるのは、僕の99%はライブのシンガーとして生きているということ。だから、僕のステージ、僕の“寸法”に合っている歌が理想。55年も歌ってきて、まだ自分の“寸法”が分からない、合わない服を着ているようじゃみっともないじゃない(笑)。

—— 日本コロムビアとはデビューからそれぞれ55年のお付き合いです。

# 18歳と60歳じゃ見える景色が違う 春歌謡の良さを大事にしたい

僕はコロムビア生まれのコロムビア育ち。当然、芸能生活を終えるときまでね。今さら自分のレーベルを作ろうとか、他のレコード会社に移ろうとか、そんな気持ちも発想もないよ。自動的に契約が延長されているのかな、ここ何十年も契約書のけの字も出てこないもん(笑)。

——日本コロムビアの株主さまへ向けてメッセージを頂けますか。

僕らがデビューしたころと比べたら音楽業界自体が少しずつ縮小傾向にあるのは事実です。それが時の流れですから仕方ない部分もあります。でも、日本コロムビアというレーベルはなくなることがないよう、スタッフや後輩たちも頑張りますから、どうか後押しをお願いいたします。

——最後に、舟木さんの今後の目標を教えてください。

ない(笑)。それは冗談として、現状維持が最大のハードル。でも、この年になって3年後に今と同じ声を出せて同じスケジュールをこなせたらすごいことだと思うよ。そのために、スケジュールの組み方の見直しも含めて、キャリア相応、年齢相応のスタンスでやっていければいいね。

## PROFILE

1944年12月12日生まれ、愛知県一宮市出身。高校2年だった1962年2月、歌謡テレビ番組「歌のチャンピオン」(CBC放送)で優勝し、作曲家・遠藤実に師事。1963年6月、遠藤実作曲、丘灯至夫作詞による「高校三年生」で日本コロムビアより歌手デビューすると、同曲は累計売上230万枚という大ヒットを記録。この年、第5回レコード大賞新人賞を受賞し、「第14回NHK紅白歌合戦」(NHK)にも出場するなど、一躍スター歌手となった。以降、「紅白」には連続9回通算10回の出場を数える。「高校三年生」をはじめ「修学旅行」「学園広場」など数多くの青春歌謡のほかに、時代劇「銭形平次」(フジテレビ)のテーマソング等の時代モノにもヒット曲多数。役者、タレントとしても活躍するが、現在も歌手としての信念を貫き多数のコンサートを開催するなど精力的な音楽活動を行っている。

### 『みんな旅人』

2017年1月25日発売  
1,204円(税別)

1982年リリースのアルバム『WHITE』に収録された自身の作詞作曲による人生讃歌。近年、シングルカットを求めるファンからのリクエストに応える形で新録音でのリリースとなった。書き下ろした当時30代だった舟木が、70代となった今、より深みを増した美声を響かせる。



## 会社・株式情報 (2017年3月31日現在)

### 会社概要

商号 日本コロムビア株式会社  
(証券コード:6791 東証第一部)

住所 東京都港区虎ノ門四丁目1番40号

設立 1910年(明治43年)10月1日

事業内容 ミュージック制作事業、  
音楽アーティストのマネジメント他

### 株式情報

発行可能株式総数 50,000,000株

発行済株式の総数 13,512,870株

株主数 8,793名

### 株主メモ

事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 毎年6月開催

基準日 定時株主総会 毎年 3月31日  
期末配当金 毎年 3月31日  
中間配当金 毎年 9月30日

そのほか必要があるときは、  
あらかじめ公告して定めた日

公告方法 当社のホームページに掲載する。  
<http://columbia.jp/company/>

株主名簿管理人および  
特別口座の口座管理機関 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人  
事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号  
三井住友信託銀行株式会社  
証券代行部

郵便物送付先 〒168-0063  
東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
三井住友信託銀行株式会社  
証券代行部

電話照会先 0120-782-031

ホームページ <http://www.smtb.jp/personal/agency/>

上場証券取引所 東京証券取引所

### 当社ホームページ (パソコン・携帯共通)

<http://columbia.jp/>

コロムビア

検索



### MUSIC サイト



### 会社情報



当社のアーティスト情報・作品から決算報告、  
音楽占いで幅広い情報をホームページで  
ご覧いただけます。



日本コロムビア株式会社



ユニバーサルデザイン(UD)の考え方にに基づき、より多くの人へ適切に情報を伝えられるよう配慮した見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。